

## 平成30年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- しっかりと生徒と向き合い、信頼に基づいた教育活動を展開することで、生徒の「意欲」を育て「力」をつける学校をめざす。
- 互いに信頼で結ばれた関係を作り上げ、その中で豊かな人間性が育成される学校をめざす。
  - 学力はもとより人間関係形成能力等も含めた総合的な「人間力」をつけることのできる学校をめざす。
  - 専門コース設置校へ移行にあたっては、総合選択制の長所を生かし、生徒の多様な進路をサポートできる教育活動を継続していく。

## 2 中期的目標

- 進路実現をはかる学力の育成
  - 「わかる授業」をめざし、創意工夫の授業改革に取り組む。
    - ICT機器・視聴覚機材を取り入れ、教材や指導法の工夫を図り、「わかる授業」「魅力ある授業」を創出する。
    - 校種を超えた授業公開・研究授業を行い、授業アンケート等を活用して積極的に授業改善を図る。
 ※学校教育自己診断「授業はわかりやすい」の項目の肯定率(H29年度 61%)を、2020年度には65%以上にする。
  - 「確かな学力」の定着から進路実現できる学力の育成をはかる。
    - 学力生活実態調査を年2回実施し、学力の定着度を測定するとともに、学力向上プラン策定の資料とする。
    - 生徒が進路へ積極的に取り組むモチベーションを高める取組みをおこなう。
 ※平成29年度から導入した学力生活実態調査のA・Bゾーンの生徒数を、2020年度には20人以上にする。  
 ※進路先に対する満足度アンケートをおこない、毎年肯定的回答80%以上を維持する。  
 ※中堅私大の合格者(H29年度12人)を2020年度に20人以上にする。
  - 総合選択制の教育内容を充実させるとともに、コース制改編に向けた体制を築く。
    - 生徒の諸能力(専門的な知識・自分で考える力・自分を表現する力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力・理解力・物事を調べる力)の向上を目標としてエリア授業の充実を図る。
    - 30年度改編の専門コース制の体制を築き、生徒の進路ニーズに応える科目配置をする。
 ※3年生対象の普総選アンケートでの表現力、プレゼン能力に対する肯定率(H29年度は72%)を、2020年度には75%にする。  
 ※コース制生徒対象のアンケートで、カリキュラム・選択科目に関する満足度を2020年度には70%以上とする。
- 豊かな人間性と社会で生き抜く力の育成
  - 社会に通用するコミュニケーション力のある人材を育成する。
    - 海外の高校との交流と海外語学研修を校内行事に位置づけ、参加を促進する。
    - 地元小中学校や地域社会と連携し、地域活動や異校種との交流を通じて社会に貢献する活動を推進する。
 ※生徒向け学校教育自己診断における国際交流、ボランティアに関する項目における満足度(H29年度71%)を、2020年度には75%にする。
  - 規範意識と環境意識を育成する。
    - よりよく社会で生きるために必要な力の育成として、生徒指導の充実を図る。
    - 校内環境の向上と、生徒の美化意識の向上を図る。
    - 入学当初のガイダンス・クラス開きを充実させ、安心できる居場所づくり・学校生活への定着の促進をおこなう。
    - 「政治的教養をはぐくむ教育」を推進するとともに、さまざまな場面での地域社会への参加、交流を積極化する。
 ※生徒向け学校教育自己診断の「学校へ行くのが楽しい」の項目の肯定率(H29年度72%)を、2020年度には80%以上にする。
  - 部活動の活性化を図る。
    - 1年生を中心に入部運動を推進し、2年次以降も定着をはかり加入率の向上をはかる。
    - 部活動の活躍状況を地域に発信する。
 ※部活動の加入率(H29年度67%)を2020年度までに70%にする。
  - ユネスコスクールの活動を基盤に、社会参画意識の育成を図る。
    - 「ESDパスポート」を活用して、生徒の社会貢献活動への参加を促進する。
    - 社会貢献活動をとおして自尊感情・自己有用感の向上を図る。
 ※生徒向け学校教育自己診断の社会貢献活動の項目の肯定率(H29年度77%)を、2020年度には85%以上にする。
  - 共生推進教室の取組みを生かし、生徒のコミュニケーション能力等の育成を図る。
    - 「共に学び共に育つ」の理念を実現すべく、共生推進教室のシステムを確立する。
    - 共生推進の生徒が、他の生徒や地域の人々と交流する機会をより多く設定する。
 ※2020年度まで、共生推進の生徒の進路決定率100%を維持する。
- 普通科総合選択制から専門コース制への再編整備にとまない、学校行事や校内組織の機構改革を行う。
  - 校務検討チーム中心に、教員定数減に対応する組織改革と、業務の効率化・平準化・マニュアル化をはかる。
  - 行事検討チーム中心に、文化祭・体育祭・修学旅行・つばさコレクション等の学校行事の内容、形態、日程について見直しを図る。
  - 進学向上チーム中心に、進学をめざす専門コースを中心に中堅大学に合格する学力をつけさせる体制を構築する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>・保護者、生徒とも肯定的評価が高い項目は昨年度とほぼ同じである。保護者で肯定的評価が90%超は、「子どもに関する個人情報を守られている」「社会貢献活動に力を入れている」「懇談週間は生徒・保護者・教員の意思疎通のために活用されている」で、なかでも「社会貢献～」については「よくあてはまる」が最も多い。他に「保護者に出す文書・事務連絡等は適切」「いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる」が高い。一方、昨年度に比べて大きく下がったのは「授業を参観する機会がある」(昨年度はPTA総会日の土曜日に実施したが本年度は総会日程を変えた都合で実施せず)、「いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」(ただし、この項目については、同じ生徒設問では、昨年度評価が大きく上昇し、今年度は全く同じであること、また上記の「いじめや暴力のない学校づくり」が昨年度と同じ率であることを考慮する必要)。引き続き保護者との意思疎通を図ることが重要。</p> <p>・生徒設問では、「頭髪や服装の指導に力を入れている」「遅刻指導に力を入れている」「将来の進路や生き方について考える機会がある」「交通ルールの学習に力を入れている」「懇談週間は生徒・保護者・教員の三者の話し合う機会として活用されている」が高い。逆に大きく下がっているのが「他の学校にない特色がある」「実験・観察・実習や学校外への見学の機会がよくある」等で授業に関する項目が下がっている。普総選があと1年でもあり、今後授業内容の工夫をしていく必要がある。</p>	<p>[第1回]</p> <p>・地域連携における、地域の課題について考えることについて、お手伝いしたい。つばさ高校は、先生・生徒とも積極的に関わってくれている。機会があれば一緒に考えさせていただきたい。</p> <p>[第2回]</p> <p>・地域での活動を見ていて、学業と部活動に大いに期待したい。本校は10年前に比べてマナー・態度について大変よくなった。今後も注視していく。ただし遅刻が増えていることは気になる。</p> <p>・私立大学進学は経済的に大変。初めから私学進学しか考えない目標ではなく国公立への進学目標の設定を。進学目標を持たしてほしい。人格形成には全幅の信頼をおいている。進学でももう1ステップ上げていただきたい。</p> <p>[第3回]</p> <p>・規範意識の育成、「自ら考える授業」の創造の目標は、かなり難しい課題だと思いがすすめてほしい。</p> <p>・進学指導について生徒が行きたい大学へのサポート体制が必要だと思う。</p> <p>・評価で入部率が達成の一方、遅刻や「身についた力」等の目標未達成について生徒たちに問題意識を持たせてほしい。</p>

## 府立北摂つばさ高等学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 進路実現をはかる学力の育成	<p>(1)「わかる授業」をめざした授業改革 ア 授業指導方法の工夫</p> <p>イ 校種を超えた授業公開・研究授業</p> <p>(2) 進路実現できる学力の育成 ア 学力生活実態調査の導入実施 イ 生徒が進路へ積極的に取り組むモチベーションを高める取組み</p> <p>(3)エリアの充実 ア 生徒の諸能力の向上の取組み</p>	<p>(1) ア・ICT等の情報機器や視聴覚機器を活用した授業づくりをめざした勉強会や研究授業を開催し、スキルアップをはかる。 ・学力保障委員会を核に、1・2学期にそれぞれ1回ずつ授業公開・研究授業を実施、改善シート等を活用するなど教員間の研さんの機会を増やす。 イ・小中学校の公開授業や研究授業を複数教科で開催し、異校種間での授業研究を進める。</p> <p>(2) ア・学力生活実態調査を導入し、4月と10月に実施し、学力定着度を測定・分析を行う。4月テストの結果向上のため宿題を多く与え、家庭学習を習慣化させるようにする。 イ・進学講習とりわけ外部講師による英語講習への参加者を増やし、志望校合格を実現する。 ・大学、看護・医療系希望者の説明会・模試を充実させ、進路実現を図る。 ・1年生で強く進学を志望する者を進学準備クラスに集め、2年次人文ステップアップコースへの結集を図る。 ・平日ノークラブデーを可能な限り同じ日に設定し、その日を進学講習実施日とし、意欲のある生徒の学習と部活動の両立を支援する。</p> <p>(3) ア エリア科目や自由選択科目などを通じて総合選択制が当初目指した表現力・プレゼンテーション力のさらなる育成。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断「授業に工夫をしている」の項目の肯定率68%(H29年度65%) ・同 「他の先生が授業を見学に来る」の項目の肯定率80%(H29年度75%) イ・異校種連携の研究授業の他校からの参加教員45人以上(H29年度39人)</p> <p>(2) ア・学力生活実態調査の上位者20人以上維持(H29年度21人) イ・学校教育自己診断の進路情報の項目の肯定的回答80%以上(H29年度76%) ・外部講師講習の参加者を40人維持(H29年度40人) ・中堅私大の推薦・AO合格者を10人以上(H29年度12人)、看護医療系合格者を10人維持(H29年度15人)</p> <p>(3) ア 普総選アンケートの表現力・プレゼン力の項目の肯定率80%以上(H29年度72%)</p>	<p>(1) ア・「授業に工夫をしている」肯定率55%(△) ・「他の先生が授業を見学に来る」71%(△)</p> <p>イ・異校種連携の研究授業(6月開催)は地震のため中止</p> <p>(2) ア・学力生活実態調査の上位者19人(△) イ・進路情報の項目の肯定率77%(△) ・外部講師講習の参加者37人(△) ・中堅私大の推薦・AO合格者11人(○) ・看護医療系合格者7人(△)</p> <p>(3) ア 普総選アンケートの表現力・プレゼン力の項目の肯定率57%(△)</p>
2 豊かな人間性と社会で生き抜く力の育成	<p>(1)社会に通用するコミュニケーション力のある人材の育成 ア 海外の高校の交流受け入れと語学研修 イ 小中学校や地域との連携</p> <p>(2)規範意識と環境意識の育成 ア 生徒指導の充実 エ 「政治的教養をはぐくむ教育」の推進</p> <p>(3)部活動の活性化 ア 部活動加入率の向上</p> <p>(5)共生推進教室の取組み</p>	<p>(1) ア 国際交流委員会と生徒会が中心になり、海外の学校との交流をすすめる、友好関係を築く。 イ 授業、部活動、生徒会、ボランティア等の活動を通じて小中学校や地域イベントへの積極的参加・交流を推進し、コミュニケーション力の育成をはかる。また地域課題について考えていく機会を提供する。</p> <p>(2) ア 遅刻多数の生徒に対して、保護者と連携し早朝登校・居残り指導を行うなどして生活習慣の確立を促し、遅刻者数の減少をめざす。 エ 大学や選管と連携しながら、「政治的教養をはぐくむ教育」を推進する。</p> <p>(3) ア 体験入部デーや仮入部期間の取組みを通じて新入生の入部を強く促す。中学生にも部活体験週間を実施し入学前から部活動を意識化させる。</p> <p>(5) ア 共生推進教室の実習先を確保し、とりかい高等支援学校と連携して進路先を確保する。</p>	<p>(1) ア 海外交流受入時にアンケートを実施し満足度を80%以上 イ・小中地域行事に参加する生徒の延べ人数200人以上(H29年度180人) ・ESDパスポート表彰認定を5人以上(H29年度3人)。</p> <p>(2) ア 1・2学期の遅刻数を2000以下に。(H29年度2139) エ アンケートで「必ず投票に行く」と回答する比率40%(H29年度33%)</p> <p>(3) ア 1年生入部率を67%(2/3)維持(H29年度67%)</p> <p>(5) ア・3年生全員の進路実現と十分な実習先の確保</p>	<p>(1) ア 本年度は受け入れ実績がなかった イ 小中地域行事に参加する生徒の延べ人数250人(◎)…地域からの参加依頼が増えた ・ESDパスポート表彰認定9人(◎)</p> <p>(2) ア 1・2学期の遅刻数2420(△) エ 本年度はアンケート実施できず(例年「政治的教養をはぐくむ教育」の一環として行っている全校集会でとっていた)</p> <p>(3) ア 1年生入部率67%(○)</p> <p>(5) ア 実習先については確保できている(進学志望者を除き進路実現)(○)</p>
3 学校行事や校内組織の機構改革	<p>ア 校務検討チームの取組み</p> <p>イ 行事検討チームの取組み</p> <p>ウ 進学向上チームの取組み</p>	<p>ア 今後2年間の教員定数減にあたり、学年・校務分掌・各種委員会の機構改革を行い、可能な限り業務の効率化・平準化・マニュアル化をはかる。 イ 文化祭、体育祭、修学旅行等の大きな学校行事の実施形態・日程・体制について、予算削減状況を踏まえつつ検討課題の結論を出す(総合選択制の廃止に伴う「つばさコレクション」の見直しも)。 ウ 専門コース制生徒の学力向上と進路実現のため、1年次からの学習指導や進路指導のあり方を検討し、ドラスチックな改革案をリリースする。</p>	<p>ア 教職員向け学校教育自己診断の校務分掌、職場環境に関する項目の肯定率60%。(H29年度39%) イ 同 学校行事に関する項目の肯定率85%。(H29年度81%) ウ 同 進路指導、学力向上に関する項目の肯定率75%にする。(H29年度70%)</p>	<p>ア 校務分掌、職場環境に関する項目肯定率35%(△)</p> <p>イ 学校行事に関する項目肯定率72%(△)</p> <p>ウ 進路指導、学力向上に関する項目肯定率66%(△)</p>